

養源院跡

養源院として知られる小さな堂がかつてこの場所に立っていました。養源院は、家康公の側室・お六の方（西暦 1597-1625）の死を追悼するために建立された寺院です。美しいだけでなくあらゆる才能を持っていた彼女は、十代にもかかわらず家康の気持ちを惹きつけました。家康は彼女を深く愛していたので、軍事行動などどこに行くのにも彼女を同伴させます。しかしながら彼らの関係は短命でした。五十五歳も彼女より年上の家康は(結婚後)わずか数年で死去してしまったのです。その後彼女は尼になって養源院と名乗りますが、まだ若く美しかったため再婚の機会を得ます。しかしこの関係も短命でした。家康が東照宮に祀られた後すぐに彼女は死去してしまいます。

有名な俳人・松尾芭蕉（西暦 1644-1694）は、家康の神社(=東照宮)へ参拝する許可が下りるのを待つ間、ここ養源院に滞在したと記録が残っています。当時彼は次のような俳句を詠みました。

あらたふと青葉若葉の日の光

（ああ尊いことよ この日光山の霊域の青葉若葉に降り注ぐ

明るく輝く日の光は）

“日の光”の語句は日光を意味しています。日光の名前は文字通り、“太陽の光”です。徳川家の家紋は三枚の緑色の葵の葉なので、“青葉”は徳川家を意味し、徳川家を褒め称える意図があることも指摘されています。